

女たちの行商 —恵曇の魚商人と大根島の花売りさん—

山本志乃 (旅の文化研究所)

はじめに

- ・行商人は商人の原点
- ・交易は旅の原点
- ・女性と商業との関わり
- ・交易が生まれる場所

1. 恵曇の魚商人

◆「恵曇の浜」から漁業基地へ

- ・「恵曇の浜。広さ二里一百八十歩。東と南とは並びに家在り。西は野、北は大海なり。即ち浦より在家に至る間は、四方並びに石木無く、猶白沙の積れるがごとし」(『出雲国風土記』より)
- ・明徳 2 (1391) 年頃に江角と古浦にそれぞれ 1 反の塩田、元文 5 (1740) 年には合計約 28 反 (実質的には 9.6 反) の塩田の記録。漁業は大引き網や延縄などが中心。
- ・天明 7 (1787) 年、佐陀川開通。松江藩が江角に御番所を設置。寛政 6 (1794) 年、武代に川方役所。島根・秋鹿・出雲・楯縫四郡の年貢米を収納し、移出の任にあたる。
- ・明治 34 (1901) 年、江角に県立水産試験場が設置。明治 40 (1907) 年、江角商業株式会社設立。魚市場経営と専用船による運輸業を開始。大正時代には集魚灯会社・鉄工所・造船所・製氷工場・缶詰工場などが設立。
- ・大正 9 (1920) 年、「恵曇漁港期成同盟会」結成。大正 11 (1922) 年に国庫補助の申請が帝国議会を通過、翌大正 12 年に着工。総額 120 万円の費用を投じて昭和 8 (1933) 年に完成。

◆「魚商人」の活躍

- ・明治から昭和初期にかけて、大敷網 (定置網)、底引き網、刺網などの漁法が開発。イワシ加工により発展。
- ・佐陀川河口近くのゴバンショに漁船が集まり、市が開かれたという伝承あり。明治～大正に漁業組合設立。江角と古浦それぞれの組合が魚市場を運営。
- ・明治 5 (1872) 年、古浦・江角・手結・片句の 4 地区 (明治 22 年にこれらが恵曇村となる) 合わせて 503 戸のうち、「魚売渡世」の世帯が 47 戸 (内訳: 古浦 17 戸、江角 7 戸、手結 10 戸、片句 13 戸)。

- ・明治 44（1911）年、恵曇村が「行商表彰規定」を定め、「各区長より品行方正にして勤勉衆に拔んで、他の模範となるべき者を一人宛村長に報告せしめ、公会の席上に於て村費を以って表彰した」（『鹿島町誌』）。
- ・金万商店などの海産物業者が親方のような形で行商人に出資し、雲南三郡を連れて歩いて商売させた（安達弥寿子さん談）。
- ・行商人が鮮魚とともにかまぼこも売り歩き、祝言の料理一切の注文を受けることも。かまぼこ屋が料理人を派遣し、モテナシニンが祝いの歌まで披露した（山本弘さん談）。
- ・昭和 18 年頃から統制経済により鮮魚販売に制限。江角・古浦・手結・御津の行商人は「配給人」として商売を継続することが許可される。

◆船からバスへ

- ・明治 40（1907）年設立の江角商業株式会社の貨客船「江角丸」、明治 45（1912）年就航の合同汽船などが佐陀川を往来。
- ・昭和初期、行商人専用船として個人営業の「正栄丸」就航。

行 先	客賃	魚類賃	米	其他
江角～松江	貳拾銭	拾貳銭	拾銭	拾銭
江角～揖屋	参拾五銭	貳拾銭	拾五銭	拾銭
江角～大根島	四拾銭	貳拾貳銭	拾五銭	拾銭

（『恵曇の今昔』2004 年より引用）

- ・その後、大和丸、天栄丸、柏丸、朝日丸、つばめ丸、みなと丸、津吉丸、向勝丸など就航。行先は、馬潟方面、朝酌方面、揖屋方面などさまざま。
- ・天秤棒とカゴを利用。カゴイナイスンとよばれる。
- ・昭和 25（1950）年に魚介類の統制が解除。行商が本格的に復活。専用船は復活せず。バスを使い、運搬道具はブリキ製のカン（「カンカン部隊」の別称）。
- ・昭和 27 年、一畑電鉄が恵曇・松江間のトレーラーバス運行開始（昭和 33 年まで）。昭和 50 年代に「魚商人専用バス」が運行。

◆得意先との関係

- ・ジバン（得意先）は行商人にとっての財産。魚商人は嫁の貰い手も多い。
- ・親の得意先を引き継いだり、年にとってやめた人の得意先を譲り受けたりして継承。
- ・得意先のお客さん自身が、他の行商人が商売に来てても買わない。
- ・魚を売るだけでなく、その家の台所で包丁やまな板を使ってさばくこともある。処理した内臓は町屋の場合は持ち帰り、農家の場合は肥料になるので置いていく。
- ・得意先を回るために使うリヤカーを預けておくヤド（懇意にしている得意先）がある。
- ・魚商人自身が客となって得意先などで買い物をすることもある。
- ・得意先の子どもの海水浴に招いたり、縁談の世話を頼まれたりすることもある。

2. 大根島の花売りさん

◆大根島の概要

- ・『出雲国風土記』では「蛭蝸島（たこしま）」（江島は「蜈蚣島（むかでしま）」と記載。
- ・近世には、島内に、波入・入江・遅江・二子・寺津・亀尻・馬渡の7村と、江島村の合計8村が成立（遅江、馬渡、江島以外の5村にカワと呼ばれる湧水がある）。
- ・約6km²の面積に、近代以降は常に5000～6000人ほどの人口。人口密度が高いのが特徴。明治5（1872）年：745人/km²、大正～昭和初期：約870～890人/km²、昭和25（1950）年：990人/km²（島根県の平均が約110～130人/km²）。
- ・昭和20年代後半の耕地率は65%（住宅地以外はほとんど畑、水田はわずか）。経営規模は、1町未満が91%、うち5反未満が65%（『農林業センサス』1950年）。

◆主要ななりわいと移りかわり

- ・薬用人参：松江藩直轄による人参栽培の御手畑→明治時代には島民による会社設立（清国への輸出中心）、日清戦争で衰退→戦後の高度経済成長期に再度増産（戦後の牡丹栽培と関係）
- ・養蚕：明治期に養蚕伝習所（寺津）→大正～昭和初期にかけて増大（島内の桑畑の面積が県下第一となる）→戦中戦後は麦・芋畑へ→戦後の増産後、1980年頃に消滅
- ・漁業：魚介類が豊富な中海で多くの家が従事→明治30年代から赤貝養殖、大正期に消滅、戦後に再興→1950年代に水質悪化、魚介類の激減→中海干拓事業により中浦水門、大海崎堤防、馬渡堤防、森崎堤防などが完成（1970～80年代）→干拓中止、中浦水門撤去（2000年代）

◆花の栽培と行商

- ・牡丹栽培は17世紀頃から。幕末期には牡丹鑑賞の習慣（門脇重綾『蝸園集』）。
- ・昭和戦前期にも牡丹園あり。1950年代に接木の新技术により大量生産が可能。
- ・農業センサスでは1960年から花卉栽培が登場。70年代にかけて最盛。
- ・薬用人参栽培の耕地利用ローテーションに組み込まれる
- ・1970年代半ばの八束町における牡丹苗販売：農協の共同販売30%（海外輸出用）、行商67%、地元の園芸業者2～3%〔猪股 1974〕。
- ・昭和初期に人口が飽和状態に。昭和11（1936）年の大根島の出稼ぎ者は359名（男193名・女166名）。
- ・戦後は昭和27（1952）年頃から出稼ぎ者増加（女性は3割、未婚者中心）。
- ・戦前の行商は、中海の魚介（赤貝）を松江・米子などに売りに行く小規模なもの。
- ・昭和34（1959）年の統計資料：行商の従事者361人、うち9割が女性。波入・入江・遅江の3集落が7割以上。品目は花卉中心。

◆行商の展開

- ・ 中海の魚介類→クサバナ→牡丹苗→牡丹苗＋観葉植物、苗木等
- ・ はじめは近隣→数泊程度の近場→数週間～1・2ヶ月程度の長期滞在、全国へ（沖縄以外）
- ・ 比較的規模の大きな農家は苗栽培、耕作地をさほど持たない小規模農家は行商が中心。
- ・ 1950年代に八束町通商自治組合を組織（列車利用のため）、1980年頃に約550人の会員。
- ・ 数人のグループ（実の姉妹など、「気の合う人」）で行動。
- ・ 広域的な活動は平成10年頃まで。

おわりに

- ・ 鉄道・バスの普及と女性の行商の広がり
- ・ 行商に学ぶ相互扶助のあり方
- ・ 「働くこと」の尊さ

【参考文献】

青山康次『恵曇』1960年

井口隆史「八束町における特産物生産の展開―地域資源利用高度化の進展―」『農村開発』No.13

島根大学農学部農山村地域開発研究調査室 1984年

猪股 趣「離島における花卉流通―島根県八束郡八束町大根島の場合―」『島根大学農学部研究報告』第8号 1974年

恵曇の今昔を記録する会『恵曇の今昔』恵曇公民館 2004年

鹿島町誌編纂委員会編『鹿島町誌』鹿島町 1962年

関西学院大学地理研究会編『大根島』関西学院大学地理研究会 1981年

清原太兵衛顕彰会『佐陀川の効用―新田開発と航路をめぐって―』2008年

島根県企画室編『大根島の実態調査―町村振興方策の一例として―』1955年

島根県教育委員会編『出雲中海沿岸地区の民俗―中海沿岸地区民俗資料緊急調査報告―』1971年

中国地域社会研究会編『八束村誌―科学的村誌への試み―』関書院 1956年

まつえ女性史を学ぶ会編『花見てござっしゃい―島の暮らしを支えた花売りの女性たち―』2011年

山本志乃「島根県・中海の大根島における生業の変遷―戦後の牡丹苗行商を生み出した背景―」
『年報 非文字資料研究』第10号 神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター
2014年

山本志乃「行商人の旅」旅の文化研究所編『旅の民俗 第1巻 生きる』現代書館 2017年

山本志乃「運河が拓いた行商の道―島根県・恵曇の魚商人―」『非文字資料研究センター研究成果
報告書 汽水の生活環境史』神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター 2018年

山本弘『鹿島町文化シリーズ1 恵曇の魚商人』鹿島町教育委員会 1998年